

世界連邦宣言

いまひとつの世界を

自治体協新聞

発行 自治体協
世界連邦宣言 全国協議会
(事務局=綾部市)
〒623-8501 綾部市若竹町8-1
TEL(0773)42-3280
FAX(0773)42-4406

総会は8月20日(土)徳島市で開催

会員自治体のご参加を

平成17年度の世界連邦宣言自治体全国協議会総会は8月20日(土)、徳島市の「ホテルクレメント徳島」で開催します。平成の大合併や三位一体改革に伴う行財政の見直しなどの影響で、本協議会の運営は厳しい状況。組織の強化など本協議会にとって重要な総会と位置付けています。

総会は午後3時から開催。平成16年度の事業・決算報告、会計監査報告のほか、平成17年度事業計画・予算を決定いただきます。また、本年度は2年に一度の役員改選期。会長、副会長、監事、常任理事、理事を選任し、本協議会の運営を託します。

総会に引き続き、基調講演を開催。今年度は「賀川豊彦

が目指した世界平和」と題して「世界連邦の父」と謳われる賀川豊彦の人生と世界連邦とのかわりをNPO法人賀川豊彦記念館(鳴門市)・鳴門友愛会理事岡田健一先生をお招きしお話をいただきます。

また、世界連邦運動に熱心に取り組んでおられる自治体の事例発表も予定しています。午後6時からは、懇親会を開催

8月17日	成田空港到着～東京泊
8月18日	都内観光～首相官邸～徳島
8月19日	徳島市内の学生との交流
8月20日	交流及び徳島市内観光
8月21日	中東和平徳島大会
8月22日	東京移動～東京泊
8月23日	成田空港から帰国

日時	平成17年8月20日(土)
場所	ホテルクレメント徳島
理事会	午後1時～ 事業計画審議等
総会	午後3時～ 事業計画審議等
講演会	午後4時～ 岡田健一先生
懇親会	午後6時～

7月29日(金)までご回答を

世界連邦宣言自治体全国協議会事務局では、現在、総会参加のご案内を加盟自治体に送付しています。総会・懇親会の経費と宿泊費の9000円を超えた額は事務局が負担します。ご案内が届きましたら7月29日(金)までに所定の用紙で事務局へ回答いただきますようお願いいたします。

非暴力の精神を貫いた賀川豊彦



世界連邦の父・賀川豊彦

賀川豊彦は、世界連邦運動協会の前身である世界連邦建設同盟の生みの親として知られる人物です。

明治21年に神戸市に生まれます。早くして両親を失い、

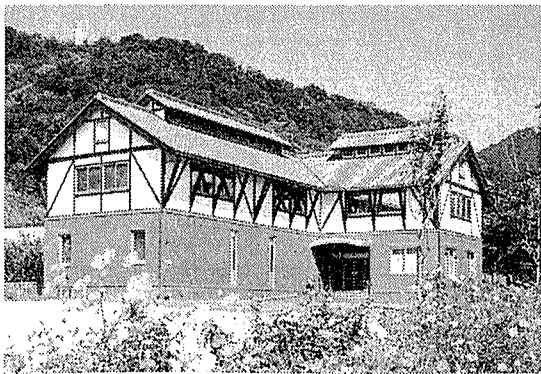
鳴門市の賀川家に引き取られますが、兄の事業の失敗や結核を患うなど、逆境の中で少年期を過ごしました。若くして伝道と救済の生活に身を投じ、その後渡米。プリンストン神学校、同大学で学び29歳で帰国。ふるさと神戸で伝道と社会事業に身をささげます。

終戦直後の東久邇稔彦内閣では内閣参与に就任。占領下の日米交渉に尽力しました。

終戦の翌月、昭和20年9月には国際平和協会を設立し、いち早く平和運動に乗り出しています。世界連邦運動を提唱し、昭和23年8月の建設同

盟結成には中心的な役割を担います。自らが宗教人であることを理由に副総裁の地位に留まり、尾崎行雄を総裁に迎えました。昭和30年、ノーベル平和賞をといた声が高まり、東久邇、片山哲の両元首相らが推薦委員会を組織し、受賞を働きかけましたが本人が辞退したというエピソードも残っています。

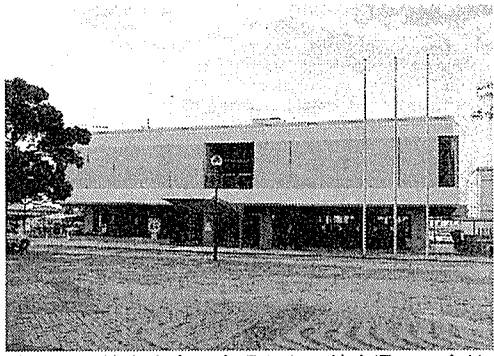
賀川はあらゆる運動を非暴力の精神で推し進めたところに特徴があり、助け合いと更生を求めた活動の精神は今も大きな影響を残しています。



全国の人々の熱意で建設された賀川豊彦記念館

中東和平プロジェクト・イン・徳島

イスラエルとパレスチナの戦争やテロで家族を亡くした子どもたちを招き、平和への願いを発信する中東和平プロジェクト。今年は8月17日(水)から23日(火)の7日間、中東和平プロジェクト・イン・徳島(実行委員会委員長 原秀樹 徳島市長)の手で開催される。ことが6月28日徳島市内のホテルで開催された第1回の実行委員会決定しました。



中東和平徳島大会の会場となる徳島県J A会館

イスラエルとパレスチナの遺児10人を招き、徳島市内の高校生との交流会や討論会を行うほか、8月21日(日)には、世界連邦徳島支部が中心となる「世界連邦に関する国会決議」を採択させようという動きが森山真弓世界連邦日本国委員会会長の強いリーダーシップのもとで、現実味を帯びてきました。

過去2回、決議寸前で廃案となった教訓を生かし、今回は、決議をスムーズに進める

現実味を帯びる国会決議

333人の署名集まる

今年には戦後とともに、国連が創立されて60周年の年です。また、1945年12月11日に尾崎行雄世界連邦運動協会初代会長が「世界連邦建設ニ関スル決議案」を提出してから60年という節目の年。この節目の年に長年の悲願である「世界連邦に関する国会決議」を採択させようという動きが森山真弓世界連邦日本国委員会会長の強いリーダーシップのもとで、現実味を帯びてきました。

過去2回、決議寸前で廃案となった教訓を生かし、今回は、決議をスムーズに進める



国会決議に向けて方針が確認された国会委員総会(中央が森山会長)

今年には戦後とともに、国連が創立されて60周年の年です。また、1945年12月11日に尾崎行雄世界連邦運動協会初代会長が「世界連邦建設ニ関スル決議案」を提出してから60年という節目の年。この節目の年に長年の悲願である「世界連邦に関する国会決議」を採択させようという動きが森山真弓世界連邦日本国委員会会長の強いリーダーシップのもとで、現実味を帯びてきました。

過去2回、決議寸前で廃案となった教訓を生かし、今回は、決議をスムーズに進める

皆さんの協力が結集

今日までの取り組みには、森山会長を始め、植木光教世界連邦推進日本協議会会長や中野寛成世界連邦日本国委員会副会長、額賀福志郎世界連邦日本国委員会事務総長など強力な働きかけがあったことは言うまでもありません。併せて、各支部・自治体から地元選出議員への賛同要請の働きかけをいただいたことが、各議員を動かし333の署名を確保した大きな原動力ともなりました。

皆さんのご協力に、心からお礼申しあげます。

定したほか、規約、事業計画、予算などを審議・承認し事業の内容を確認しました。

委員長就任のあいさつで原市長は「中東和平プロジェクトの開催は徳島市にとって大きなチャレンジ。綾部、岡山で培われた和平実現の願いを徳島で花開かせたい。市民が

このほか実行委員会では、委員長を原秀樹徳島市長に決

平和を考える機会にもつなげたい」と抱負を述べました。

徳島市は人口27万人、徳島県の中心都市で、毎年夏に開催される「阿波踊り」は世界的にも有名。明石海峡大橋の開通によって、四国の玄関口として更なる発展に期待が高まっています。

編集室から

161自治体から922万円

平成17年1月から3月の間に取り組みました「世界平和と難民飢餓救済のための自治体職員1人100円募金」につきましては161自治体から922万円の募金を頂戴しました。このうち500万円を中東和平プロジェクト徳島実行委員会(委員長 原秀樹 徳島市長)に補助の予定。また、各180万円をHCR協会とユニセフに寄託しました。多くの皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

合併後も宣言継承を

世界連邦宣言を行っている自治体は、合併や三位一体改革の具体化の影響などで現在約350団体となっています。今年には戦後60年。世界平和と世界連邦の趣旨をいま一度ご理解いただき、宣言の継承と当協議会への加盟について、格別のご理解をいただきますようお願いいたします。